

2021年12月27日

国土交通大臣 齊藤 鉄夫様

国土交通省九州地方整備局局长 藤巻 浩之様

国土交通省九州地方整備局 八代河川国道事務所所長 服部 洋佑様

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水晃、上村雄一、緒方俊一郎、本田進

連絡先 869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927

TEL:080-3999-9928 FAX:0968-72-5604

E-MAIL: tsuchi_tk@yahoo.co.jp

瀬戸石ダムの発電再開中止を求める要請書

瀬戸石ダムを管理運営する電源開発株式会社（以下電源開発）は、昨年の豪雨災害以降、発電を停止している瀬戸石ダムの来春からの発電再開を公表しました。報道によりますと電源開発広報室は「地域住民の理解を得ながら、引き続き適切なダムと発電所の運用に努めていきたい」としていますが（2021年12月8日、熊本日日新聞）、このコメント自体、昨年の豪雨災害に関して瀬戸石ダムが周辺に被害を及ぼしていないと述べていることと同じです。

私たちはダム周辺の状況調査や貴省の資料を用いて、瀬戸石ダムが水害の原因であることを指摘しましたが、電源開発からはその点についてまともな説明や反論もなく、瀬戸石ダムの影響はなかったとしています。また瀬戸石ダムが水害の原因とする流域住民に対して説明責任も放棄しています。このような電源開発の姿勢には強い憤りを感じます。

瀬戸石ダムが発電を再開しますと、球磨川の治水面に大きな影響を及ぼします。なぜなら、昨年の豪雨災害以来の球磨川の治水対策は殆ど進んでおらず、発電のためゲートを開め、ダム湖に水をためれば、昨年の豪雨と同程度の降雨があった場合、球磨川中流域では同様の被害が発生することは避けられないからです。

JR 肥薩線は現在でも運行再開は非常に厳しい状況にあります。再度水害が発生すれば、鉄道の破損はさらに酷くなり、ますます復旧作業を困難なものにしてしまいます。また国道 219 号線などダム湖周辺の道路も再度冠水し、工事途中の護岸や橋梁なども崩れる恐れがあります。ダム湖周辺やダム下流の住宅のかさ上げ工事も終わっていませんので、昨年と同程度の浸水被害を受け、既に住民が戻って居住している家屋では人的被害発生の可能性さえあります。

このような状況で一私企業の利益追求のための発電再開など許される訳がありません。つきましては、貴省におかれましては、電源開発に対して瀬戸石ダムの発電再開中止を指導されますよう要請します。

以上